参考資料 1

豊島区の概要

赤字：追加箇所

●区の概要

【人　口】283,184 人（令和 4 年 2 月 1 日現在）：人口密度全国一

【世帯数】176,073 世帯（令和 4 年 2 月 1 日現在）

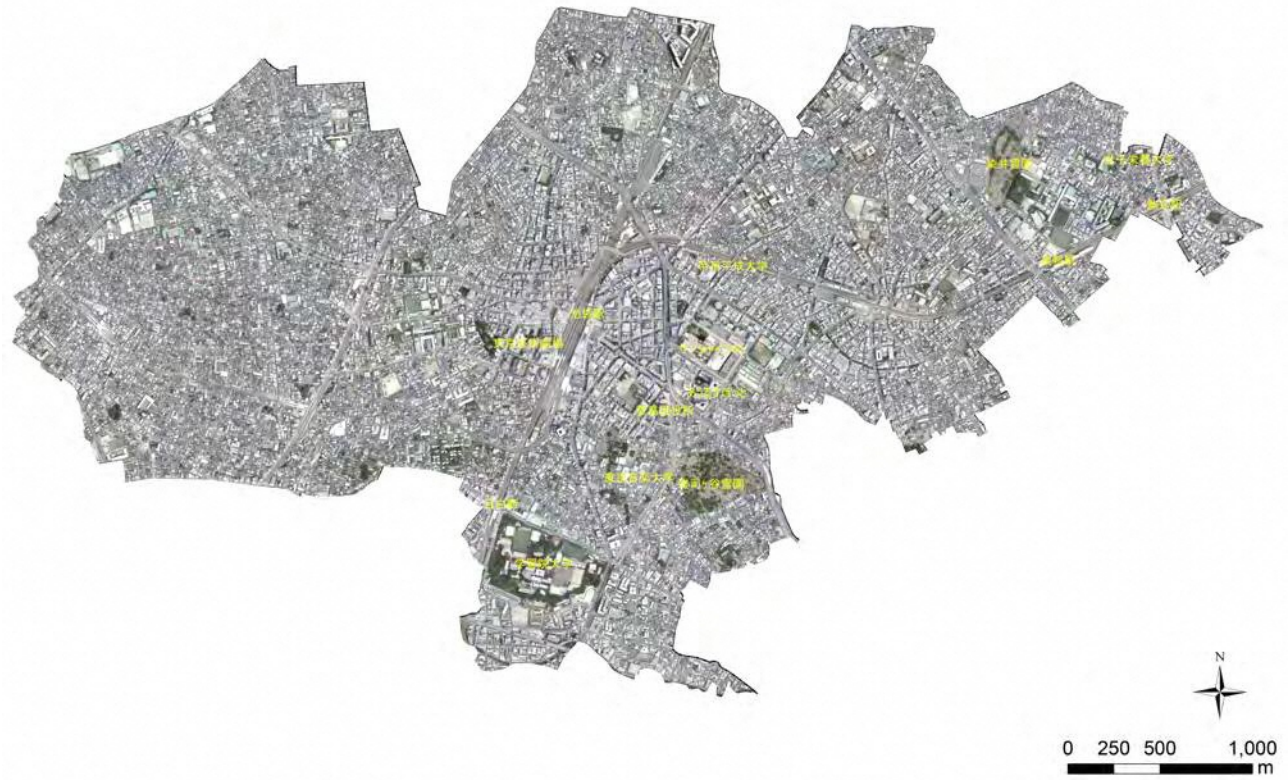
【位　置】東京 23 区の西北部に位置する　：東経 139 度 43 分 北緯 35 度 44 分（区の中央部）

資料：豊島区 HP より

【面　積】13.01 km²：23 区中 18 番目の広さ

東京都総面積の 0.595%、区部面積の 2.1%

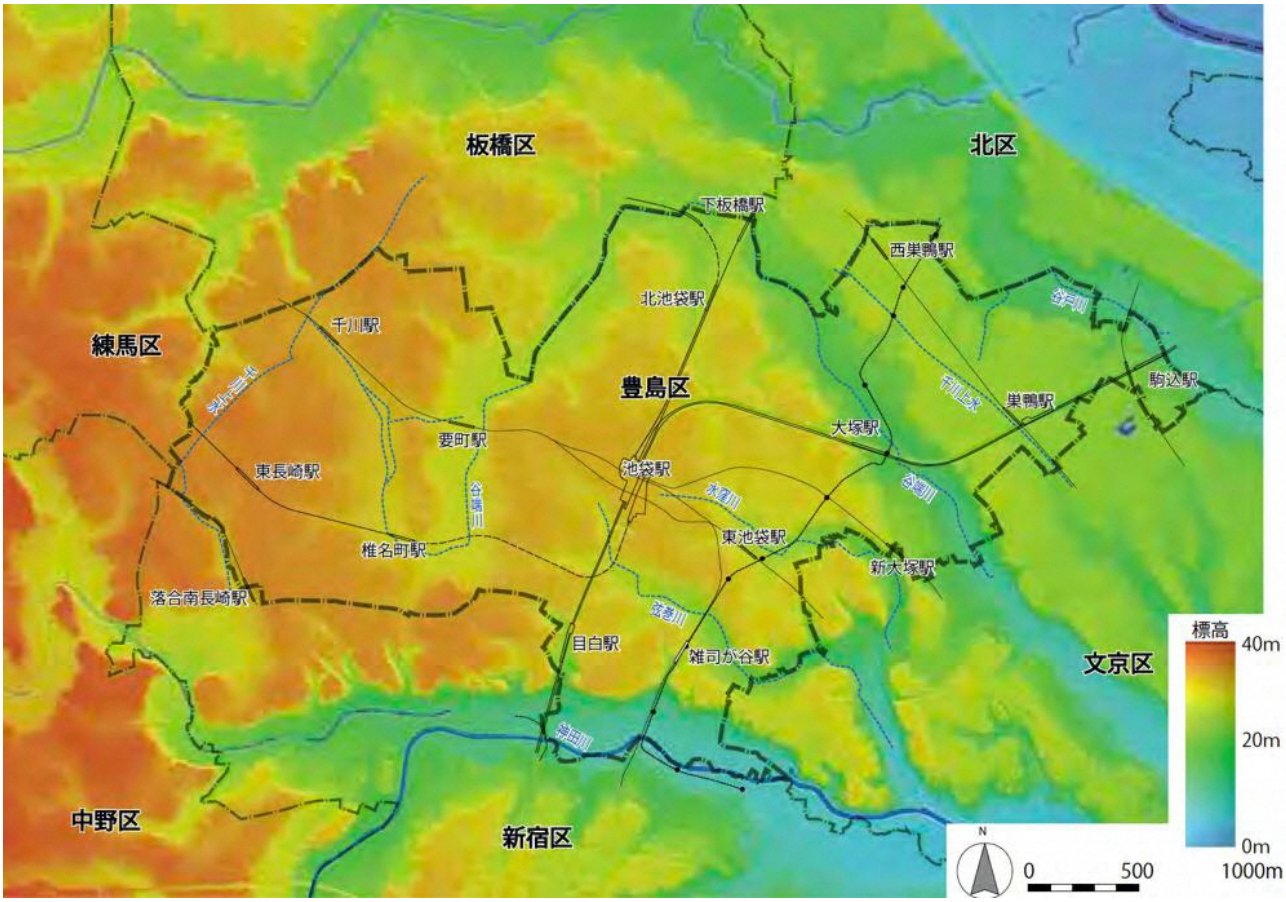
【地　勢】東西 6,720m、南北 3,660m：「鳥が羽を広げたかたち」



資料：豊島区全域の航空写真（H27.5 撮影）

●地形

- 北を荒川、南を多摩川に挟まれた武蔵野台地の東端に位置し、谷戸川（谷田川）、神田川、弦巻川、谷端川などの流れによって削られた台地と複雑な谷が織りなす変化のある地形（東京湾海面を水準として高地 36m、低地 8m）



【図】標高地形図
資料：「基盤地図情報数値標高モデル（国土地理院）」より作成

●地質

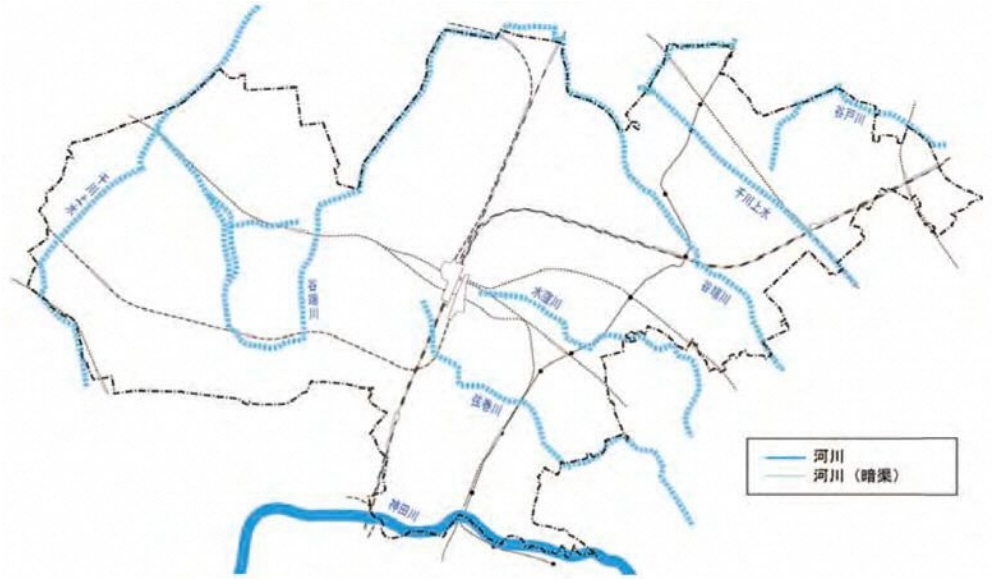
- 関東ローム層と呼ばれる火山灰土で覆われた武蔵野台地に位置する

【図】地層分布図

資料：豊島区 HP より

●水辺

- 区内で水面を見られるのは新宿区との境を流れる神田川のみであり、谷端川、弦巻川、谷戸川（谷田川）、千川上水などの河川や用水路は暗渠となっている
- 近年、神田川は水質改善が進み、アユが遡上し、ドジョウが生息するなど区内の貴重な水辺となっている
- 暗渠となった河川・用水路においても、谷端川緑道や千川親水公園など緑道や公園として一部が整備されている
- 「霜降橋」のように、かつての橋の名称が交差点名に付けられるなど、現在もその名残が息づいている



【図】河川・水路図

資料：豊島区景観計画（R3.6 一部改定）より

●気象

- 豊島区の平均気温：15～16℃程度　年間降水量：1,300～1,800mm 程度
- 令和 2 年における本区の気象状況は、年平均気温 16.4℃

【表】気象状況

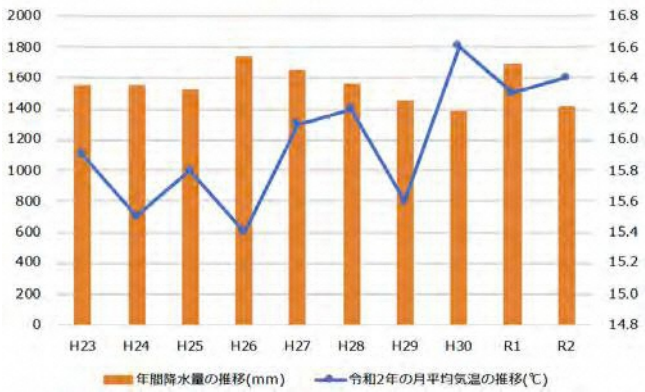
過去10年間　年ごとの値

年		気温(℃)			平均風速	降水量
		日平均	日最高	日最低	(m/s)	(mm)
2011	平成23年	15.9	20.8	11.9	0.7	1553.5
2012	平成24年	15.5	20.2	11.7	0.8	1556.0
2013	平成25年	15.8	20.9	11.5	1.7	1527.5
2014	平成26年	15.4	20.4	11.3	1.6	1740.0
2015	平成27年	16.1	20.7	12.2	1.6	1647.0
2016	平成28年	16.2	20.9	12.2	1.6	1565.5
2017	平成29年	15.6	20.5	11.4	1.6	1452.5
2018	平成30年	16.6	21.4	12.4	1.5	1384.0
2019	令和元年	16.3	21.0	12.3	1.6	1692.0
2020	令和2年	16.4	21.1	12.4	1.4	1418.0

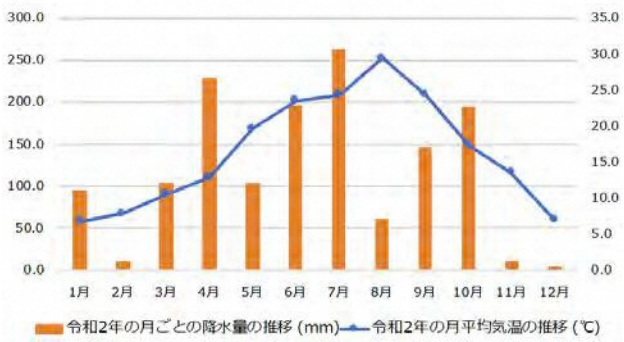
2020年　月ごとの値

月	気温(℃)			平均風速	降水量
	日平均	日最高	日最低	(m/s)	(mm)
1月	6.7	10.7	2.7	1.7	94.5
2月	7.8	12.8	3.0	1.9	11.0
3月	10.5	15.9	5.7	2.0	103.5
4月	12.8	18.4	7.6	1.9	228.5
5月	19.6	24.7	15.3	1.3	103.0
6月	23.6	28.0	20.0	1.1	196.0
7月	24.4	28.0	21.8	1.1	264.0
8月	29.5	34.8	25.4	1.0	61.5
9月	24.4	28.3	21.3	1.3	146.0
10月	17.3	21.1	14.2	1.2	194.0
11月	13.5	18.3	9.1	1.2	11.0
12月	6.9	12.0	2.2	1.1	5.0

資料：気象庁　観測地点：練馬



【図】年平均気温及び降水量の推移



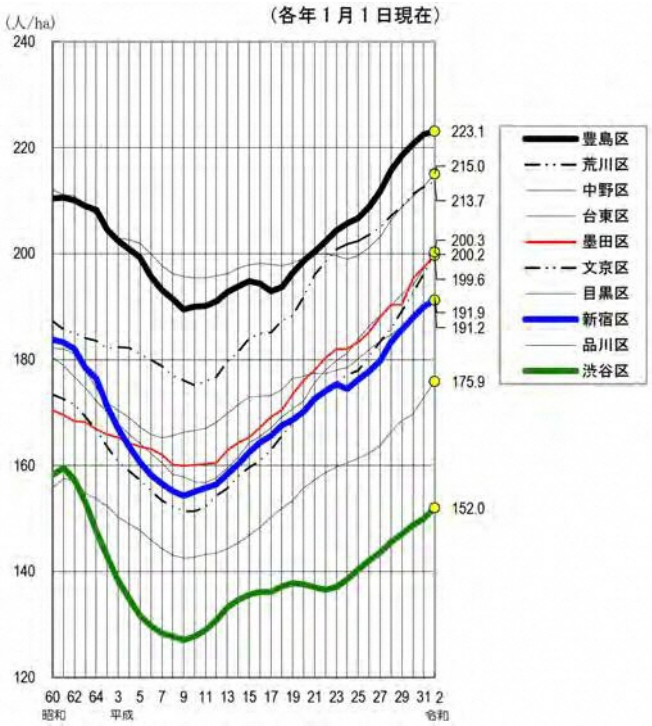
【図】令和 2 年の月平均気温及び降水量の推移

資料：気象庁　観測地点：練馬

●人口

- 豊島区の人口密度は、23 区内でも高い水準で推移し、近年は中野区を上回り、令和 3 年 1 月現在で 220.8 人/ha と全国一（人口約 28 万 7 千人）
- 平成 9 年を底に平成 14 年まで増加傾向が続いていた区の人口は、平成 15 年、平成 16 年の 2 年間一時的に減少し、平成 17 年には再度増加
- 今後の人口見通しは、東京が人口減少社会へと移行するのにあわせて、本区においても人口減少へと向かうと考えられる

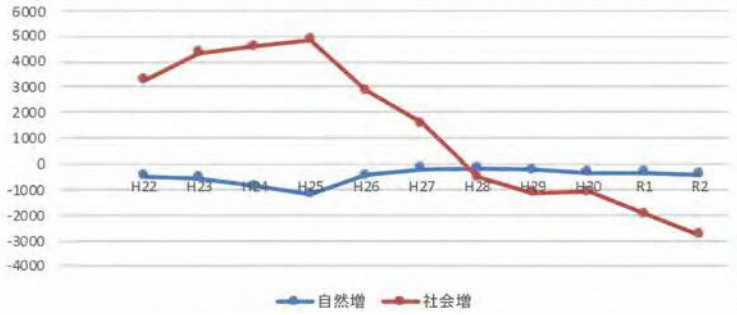
【図】人口の推移



【図】各区の人口密度の推移

資料：豊島区未来戦略推進プラン 2021 より

- 豊島区の人口動態をみると自然動態では出生が死亡を下回る自然減
- 社会動態では、平成 23 年から平成 25 年までは毎年 4,000 人以上が増加。以降転出が転入を上回る社会減となっており令和 2 年では約 2,800 人の社会減



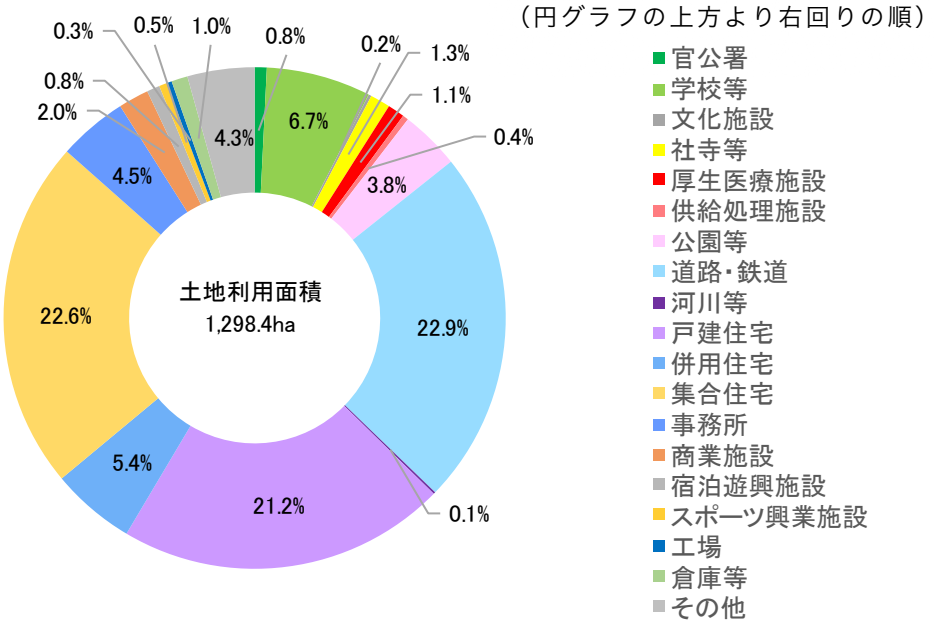
【図】人口動態の推移

資料：住民基本台帳より作成

●土地利用

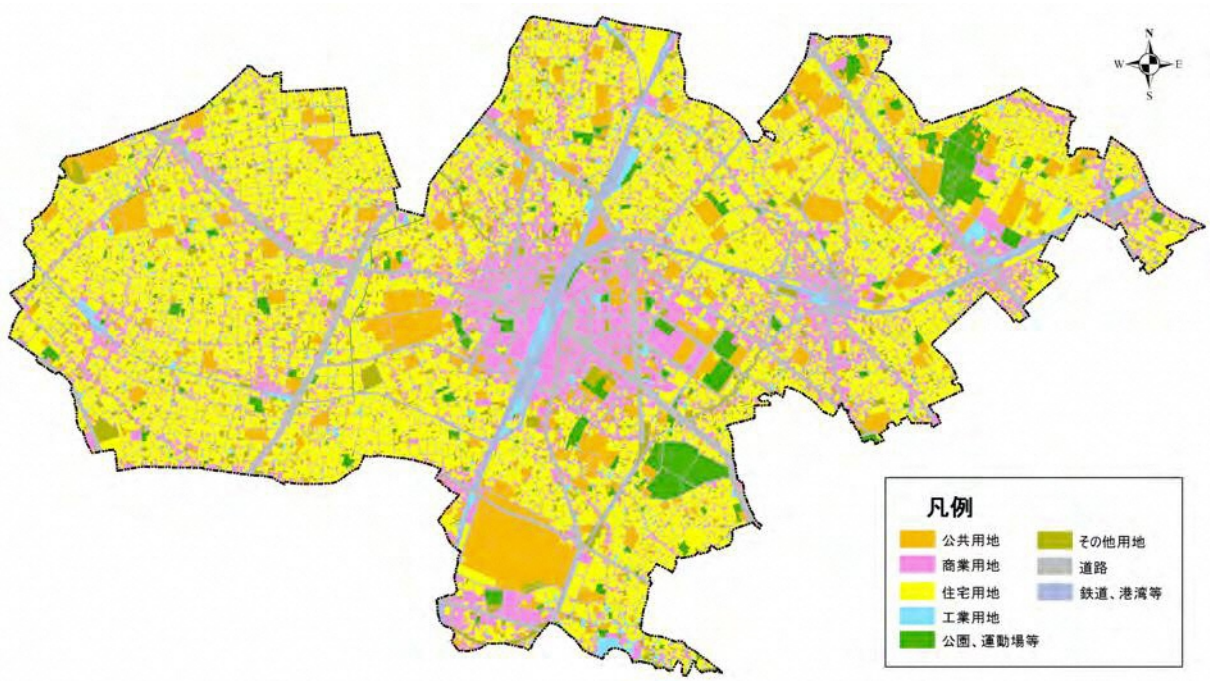
○ 土地利用現況

- 豊島区の総面積に占める土地利用面積の構成割合は、公共系が 37.4%、住宅系が 49.2%、商業系が 7.7%、工業系が 1.4%
- 商業施設や事務所は池袋駅を中心とした副都心区域に多く、鉄道駅周辺、幹線道路沿道及び旧街道沿いにも分布し複合的な土地利用が多くを占めているのが特徴



【図】総面積の土地利用面積の構成割合

資料：豊島区緑被現況調査（R2.3）より

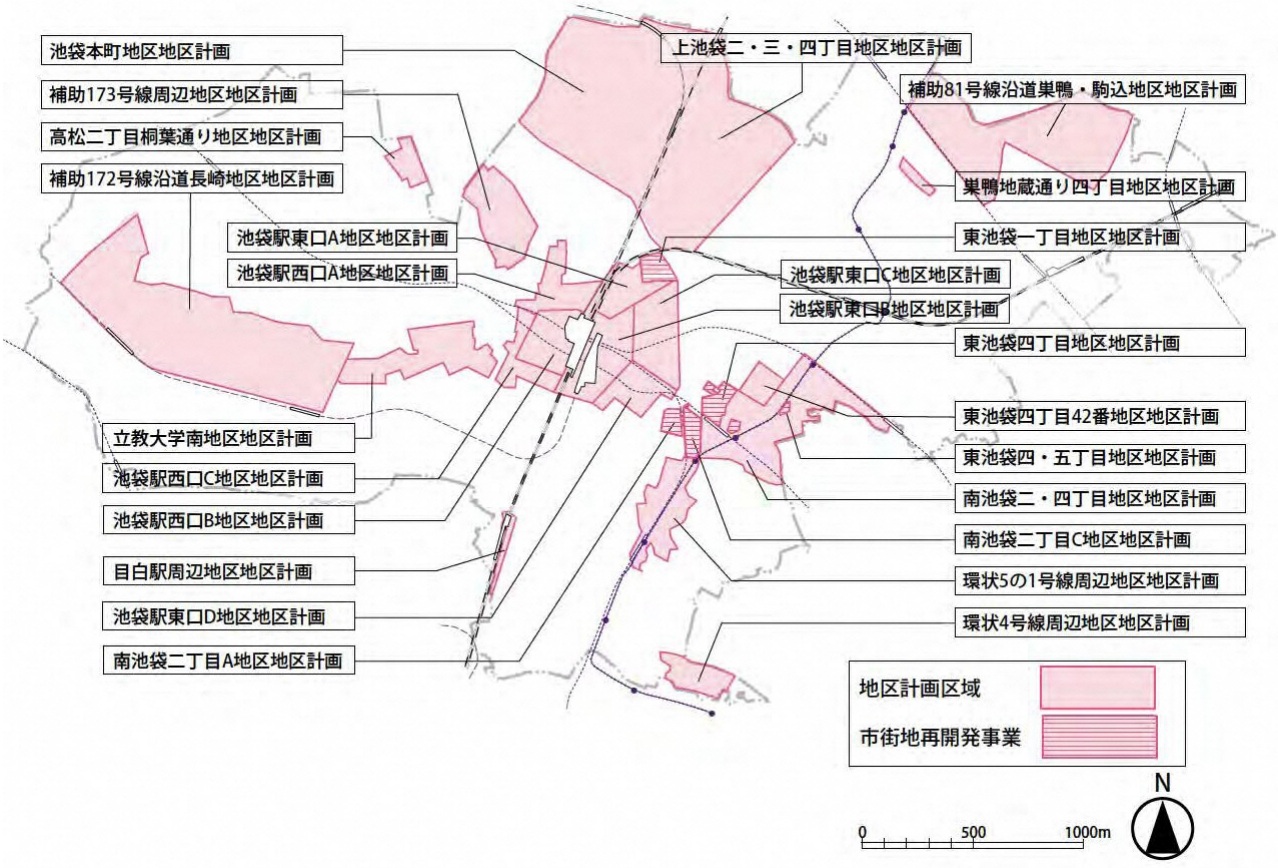


【図】土地利用現況

資料：平成 23 年度土地利用現況調査より作成

○ 市街地整備の状況

- 市街地整備の状況は、都市計画道路の整備など土地利用の変化にあわせて、用途地域の変更や沿道での防火地域指定、地区計画制度の活用（計 25 地区、367.6ha）が進む
- 地区計画のうち、２つの地区では豊島区街づくり推進条例に基づき、区民からの申出により策定した
- 東池袋４丁目地区は商業、業務、住宅、南池袋２丁目では豊島区本庁舎と商業、住宅が複合した市街地再開発事業が行われている



【図】地区計画および市街地再開発事業

資料：豊島区都市づくりビジョン改定版（R3.3）より

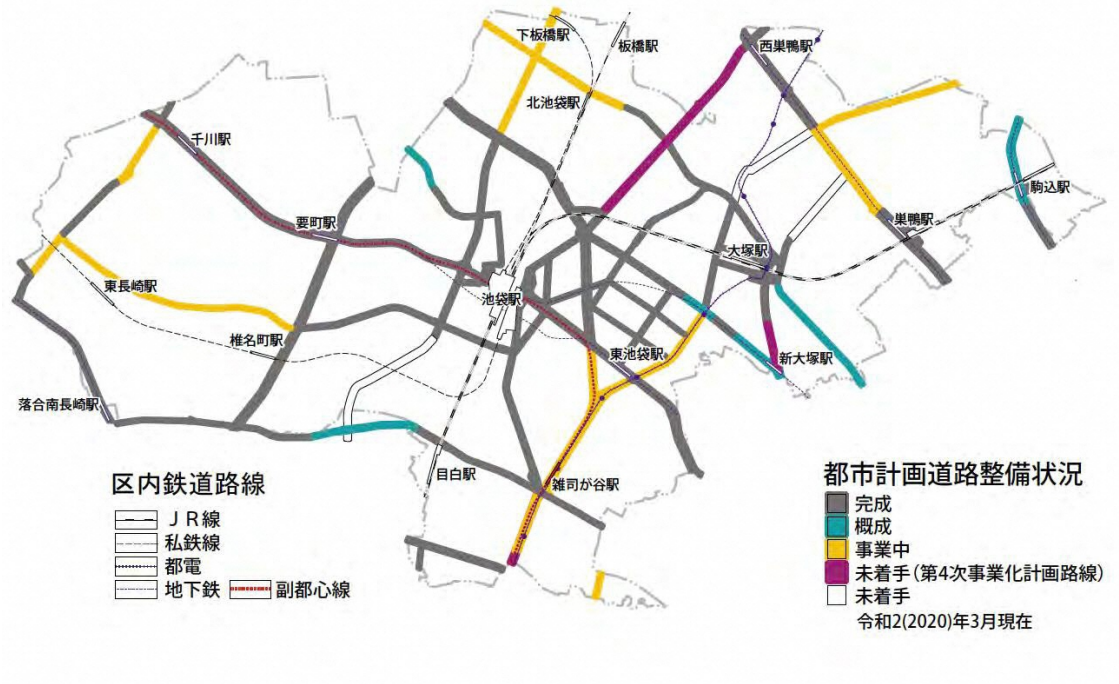
●交通環境

○ 道路

- 幹線道路は、現在事業中の路線が完成すると、放射線で９割超、環状線では約８割が整備される
- 池袋副都心アプローチ道路の事業化や狭あい道路拡幅整備事業が進んでいる

○ 鉄道

- 区内には、JR 東日本（山手線ほか５駅）、東武鉄道（東武東上線３駅）、西武鉄道（西武池袋線３駅）、東京メトロ（丸ノ内線・有楽町線・副都心線・南北線９駅）、都営地下鉄（三田線・大江戸線３駅）がある
- 東京メトロ副都心線が開通し、目白駅、大塚駅、東長崎駅及び椎名町駅において、自由通路や駅前広場の整備など駅周辺整備が進展している



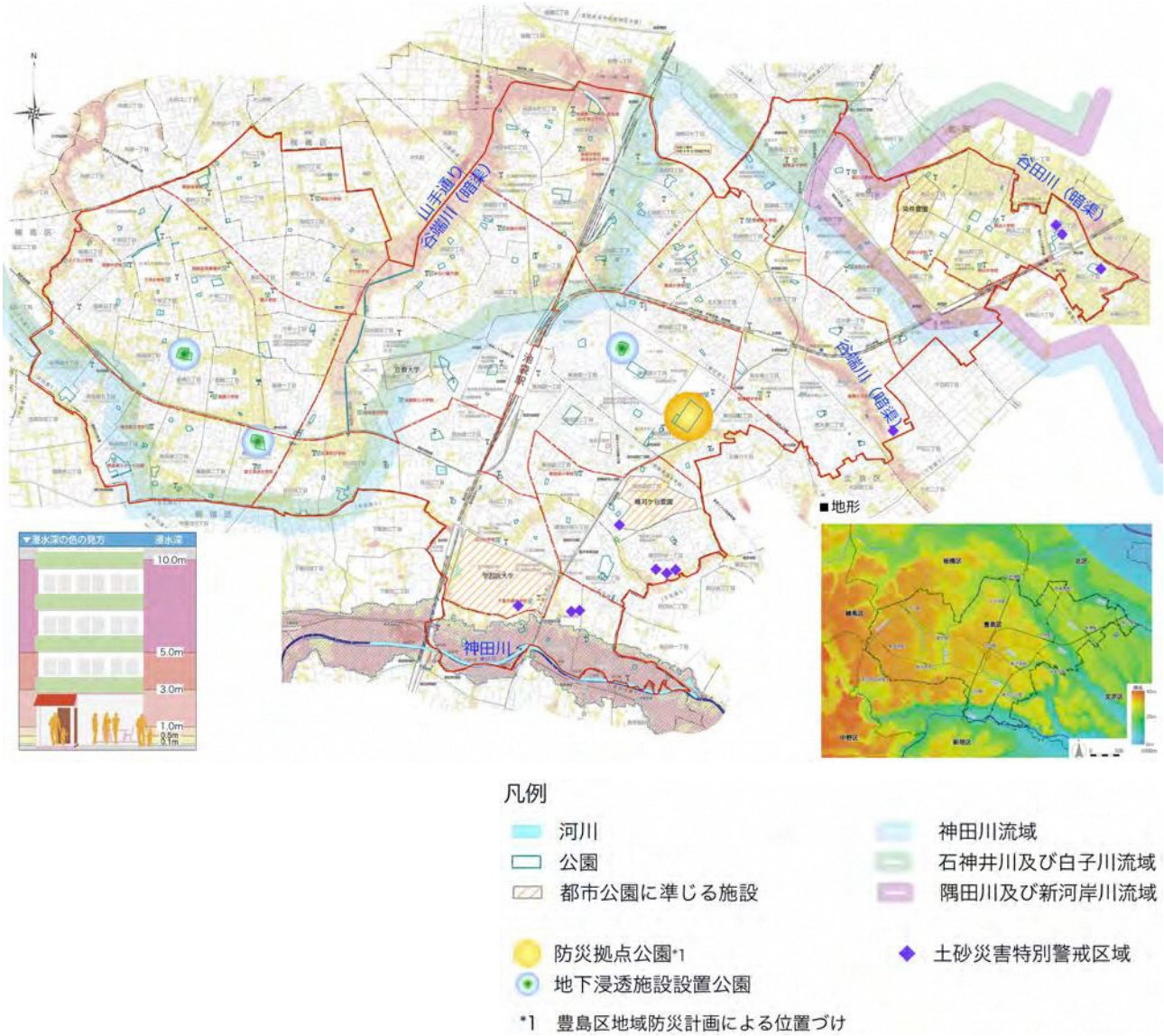
【図】都市計画道路整備状況

資料：豊島区都市づくりビジョン改定版（R3.3）より

●防災

○ 浸水予想区域・土砂災害警戒区域

- 豊島区で想定している大雨の規模（石神井川および神田川流域は総雨量 690 ㎜・時間最大雨量 153 ㎜）の場合、谷地形となる神田川沿いや谷端川沿いが浸水予想区域となっている
- 区の一部に土砂災害警戒区域がある
- 公園、児童遊園において流出抑制施設（浸透桝、浸透Ｕ型側溝、透水管）を 93 公園に設置、地下浸透施設を６公園（合計 646m2）に設置している（平成 27 年４月１日現在）



【図】浸水予想区域・土砂災害警戒区域

資料：豊島区洪水ハザードマップ（神田川・石神井川・隅田川版 R4.1）より作成

○ 防災まちづくり

- 東京都「防災まちづくり推進計画」（令和２年３月）において豊島区内では５地区が不燃化特区に、５路線７区間が特定整備路線に指定されている
- 豊島区は木造住宅密集地域（木密地域）が４割を占めており、公園や街路樹などのみどりによる延焼防止対策が求められている

凡例

- みどりの拠点
- みどりの骨格軸
- みどりの軸
- 新たなみどりの軸
- 連続したみどり*1
- 新たな連続したみどり
- 河川
- 公園
- 公園等のみどり（隣接区）
- 都市公園に準じる施設
- 防災拠点公園*2

*1　豊島区都市づくりビジョン（R3.4)による位置づけ
*2　豊島区地域防災計画による位置づけ

・東京都「防災まちづくり推進計画」による指定

- 整備地域
- 重点整備地域（不燃化特区）
- 特定整備路線

【図】防災まちづくり

資料：豊島区の街づくり 2021 より作成

●景観

- 都市化が進んでいる中でも、染井霊園及び雑司ケ谷霊園の周辺をはじめ多くの寺社があるほか、文化財や都電荒川線などがあり、歴史と文化、景観などの資源が分布している
- 人為的な影響が少なく自然状態を保つ樹林は、学習院大学の西側と南側の斜面に唯一残る。また、東部地域や神田川付近の高低差がある南部地域では坂道が多く特徴的な景観となっている
- また、池袋駅周辺は、東京北西部のターミナル拠点として区内最大の商業地を形成し、大規模百貨店や東京芸術劇場が立地し、サンシャインシティとその周辺までの広域にわたって、商業、業務、文化・芸術、情報などの多彩な都市機能が集積する副都心を形成している
- これらの商業施設や公共施設などを結ぶ主要な通りは、買い物や遊興などで訪れた多くの人々が行き交い、にぎわいを見せおり、その中でも駅前のグリーン大通りや劇場通りは、区を代表する並木道として親しまれている

【図】地域資源分布

●歴史

○ 区名の由来・区のおいたち

- 豊島区は、昭和７（1932）年 10 月、東京市郡合併により近郊 82 カ町村が東京市に編入され、新たに 20 区が設けられた際に誕生した
- それまで北豊島郡下にあった巣鴨町・西巣鴨町・長崎町・高田町の４つの町が統合されたもの
- 区名については、４町協議の結果、北豊島郡がなくなることから、この郡の中心にあたるこの区にその由緒ある名前を残すことが決められ「豊島区」が誕生した
- 「豊島」の地名は、古代律令制下の武蔵国の郡名

資料：豊島区 HP より

○ 近世（江戸時代）

- 江戸時代は７か村、人口は約 3,000 人前後
- 下高田・雑司谷・巣鴨・上駒込の各村には、大名の下屋敷や抱屋敷が多く見られ、巣鴨には御薬園、雑司谷には御鷹方組屋敷、御犬飼小屋があったが、その他はほとんどが農地
- 水田は神田川流域の低地、谷端川・弦巻川・谷戸川沿いに多少見られたが、ほとんどが畑地で、江戸市中へ出荷する野菜の栽培が盛んであった（駒込なす・巣鴨だいこん・巣鴨こかぶ・滝野川ごぼう・長崎にんじん）
- 駒込は庭木栽培に向き、多くの植木屋が軒を並べ、特につつじ、さつきの栽培が有名で、品種改良も盛んに行われ一大園芸都市をなしていた
- 日本を代表する桜の品種「ソメイヨシノ」も駒込（染井）の地が発祥
- 巣鴨も、菊づくりで知られ、特に趣向を凝らした菊の形作りが評判を呼び、江戸市中より菊見の人で賑わう
- 中仙道など街道沿いに町場地域がつくられはじめる

図：染井の植木屋　資料：既刊『豊島区史』（豊島区史編纂委員会/編纂　東京都豊島区/発行）より

○ 近代（明治～大正）

- 明治元（1868）年７月、江戸は東京と改称され中心部に東京府がおかれる
- 武蔵野の原野が広がり農家が散在する光景は江戸末期と変わりがなく、わずかに中山道に沿った巣鴨と、雑司が谷の鬼子母神が賑わいを見せる

「鬼子母神」 資料：豊島区 HP より

- 明治７年、雑司ケ谷霊園、染井霊園が開園
- 明治 18 年３月、日本鉄道の赤羽-品川間が開通し、目白駅が開業して以来、池袋-田端間の開通と大塚・巣鴨・池袋駅の開業（明治 36 年）と進み、山手線の発達とともに移住者が増える
- 明治 40 年代に入ると、豊島師範学校の開校、学習院、大正、立教大学の区内への移転が相次ぎ、次第に学生の街としての姿を整えていく
- 大正年間に入ると、東上鉄道（大正３年）、武蔵野鉄道（同４年）が開通し、池袋は交通の重要拠点となり、関東大震災（大正 12 年）後、本格的な市街地化が進み、区内人口は 20 万をこえるほどに増加

○ 現代（昭和～令和）

- 昭和７（1932）年 10 月、４町が合併し、豊島区が誕生
- 昭和 16（1941）年 12 月、日本は太平洋戦争に突入　戦後、自治権拡充の動きの中で、副都心池袋を中心に大きく発展した

「池袋のまち」 資料：豊島区 HP より

●文化資源

- 区内には、３つの国指定文化財をはじめとする、それぞれの地域に根付いた特色ある文化資源が数多くあり、地域の歴史を継承する祭事・催事などが行われ、そうした地域固有の文化を活用した新たなまちづくりも各地で展開され始めている
- 劇場・映画館などの文化拠点も数多くあり、近年、池袋を中心に、マンガ・アニメ関連施設が続々と集積している

○ 国指定重要文化材

■豊島長崎の富士塚

■自由学園明日館

■法明寺鬼子母神堂

資料：豊島区広報パンフレットより

○ 豊島区の文化資源

資料：豊島区国際アート･カルチャー都市構想より

参考資料２

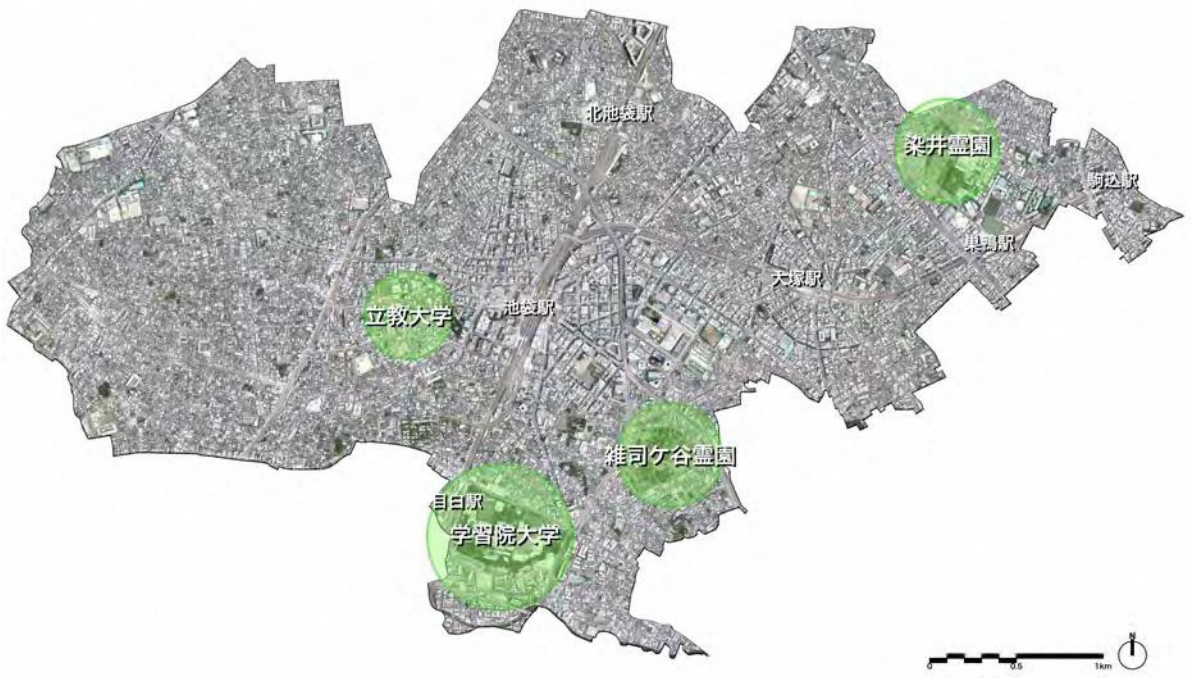
豊島区のみどりの現状

赤字：追加箇所

●自然環境

○ 緑地の現況

- 区内のほとんどは市街化されており、規模の大きな緑地は、学習院大学、雑司ケ谷霊園、染井霊園が貴重なまとまりのあるみどりとなっている
- 自然のままの環境を残すまとまったみどりは学習院大学内の森（スダジイ林）が唯一で、都内でも希少な自然林
- 区民の森（目白の森、池袋の森）なども規模は小さいが貴重な緑地・水辺となっている
- 雑司ケ谷霊園には、小規模だが区内では貴重な草地が点在している
- 一方、住宅地を中心に小規模な緑被が多く分布しており、住宅地などの庭木も重要なみどりとなっている



資料：豊島区全域の航空写真（H27.5 撮影）

○ 生きものの状況

- 平成 24 年度に実施した区内の主な緑地における現地調査では、マヤラン、コカブトムシ、ツミなどの希少種も確認されている
- 学習院大学、雑司ケ谷霊園は樹林性鳥類の生息環境として機能していると考えられている
- 昆虫類は樹林性の種が主に学習院大学で、草地性の種が主に雑司ケ谷霊園で確認されたが、過去の文献と比較すると、雑木林や湿性環境、草地環境などに生育する種が減少しており、そうした生きものの生息・生育に適した環境も減少していることがうかがえる

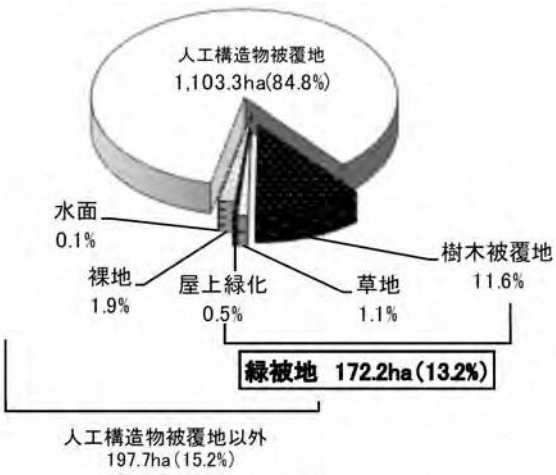
●緑

○ 豊島区の緑被率：13.2%（令和元年度）・・・東京 23 区のうち 19 位

- 区内の緑被地面積は 172.16ha で、区全域の緑被率は 13.23%
- 豊島区の緑被地の構成は、樹木被覆地が緑被地面積の約 9 割を占め、草地と屋上緑化が約 1 割
  - ・主な樹木被覆地の分布地：都営雑司が谷霊園、都営染井霊園、学習院大学等の大学、面積規模の大きい公園、社寺境内地、街路樹
  - ・主な草地の分布地：鉄道沿線、南池袋公園等にまとまって分布
  - ・主な屋上緑化の分布地：区役所、池袋駅周辺の大規模商業施設等
- 緑被地の推移は、平成 21 年度～平成 27 年度において緑被率の変化はなし
- 平成 27 年度から令和元年度においては緑被地が 4.95ha 増加し、緑被率 0.38 ポイント上昇で、増加要因は既存樹木の生長、街路樹整備、学校等の新設に伴う屋上緑化の増加などによる
- 区の緑被地面積の割合は、公共の緑が 50%、民有地の緑が 50%（令和元年度）

項　　目	面積(ha)	構成比(%)
人工構造物被覆地以外	197.71	15.20
緑被地	172.16	13.23
樹木被覆地	151.45	11.64
草地	14.41	1.11
屋上緑化	6.30	0.48
裸地	24.64	1.89
水面	0.91	0.07
人工構造物被覆地	1,103.29	84.80
合　　計	1,301.00	100.00

【表】豊島区内の緑被地等の面積と割合



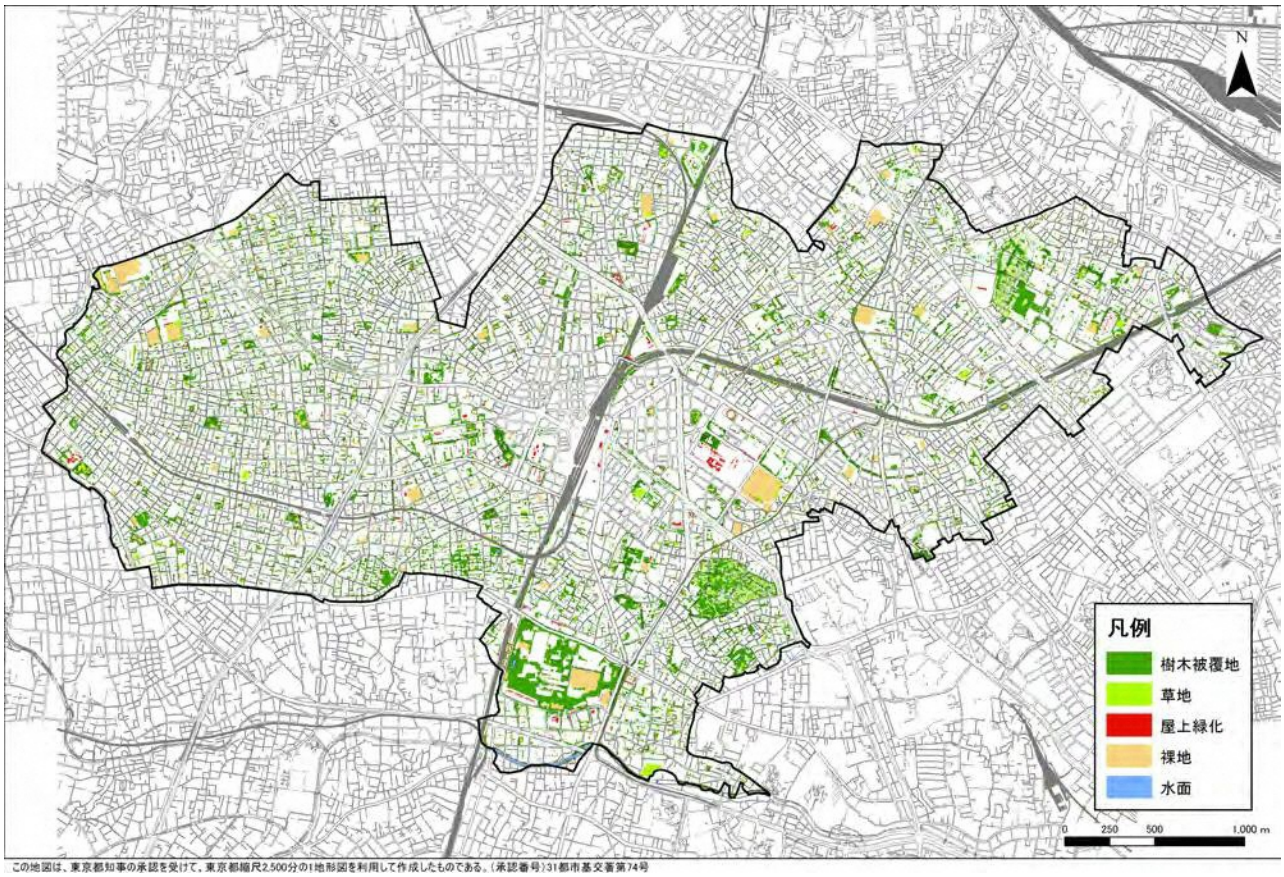
【図】豊島区内の緑被地等の構成

資料：豊島区緑被現況調査報告書（R2.3）より

項目	平成27(2015)年度		令和元(2019)年度		変化量	
	面積(ha)	割合	面積(ha)	割合	面積(ha)	割合
樹木被覆地	147.87	11.37	151.45	11.64	3.58	0.27
草地	14.09	1.08	14.41	1.11	0.31	0.02
屋上緑化	5.24	0.40	6.30	0.48	1.06	0.08
緑被合計	167.21	12.85	172.16	13.23	4.95	0.38

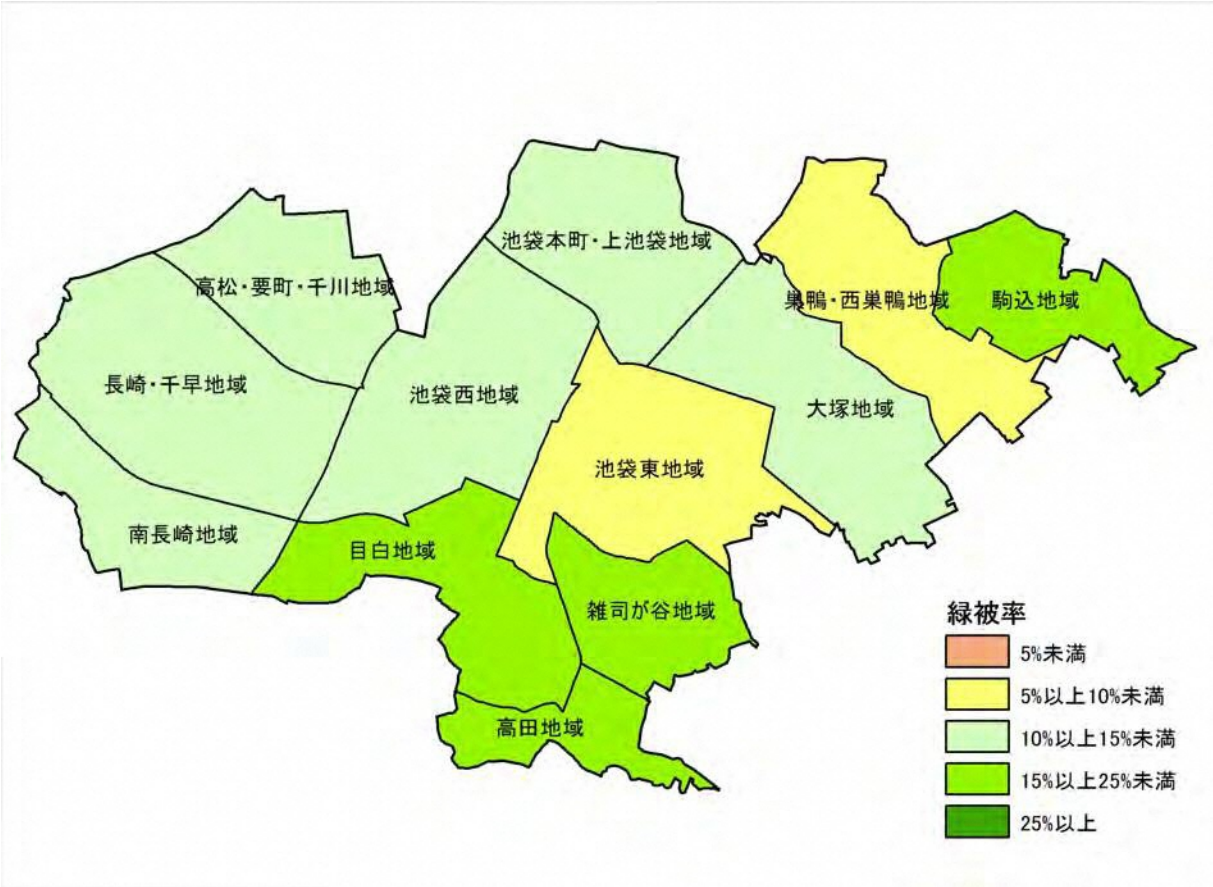
【表】緑被地等の推移

資料：豊島区緑被現況調査報告書（R2.3）より



【図】緑被分布図

資料：豊島区緑被現況調査報告書（R2.3）より



【図】地域別の緑被率

資料：豊島区緑被現況調査報告書（R2.3）より

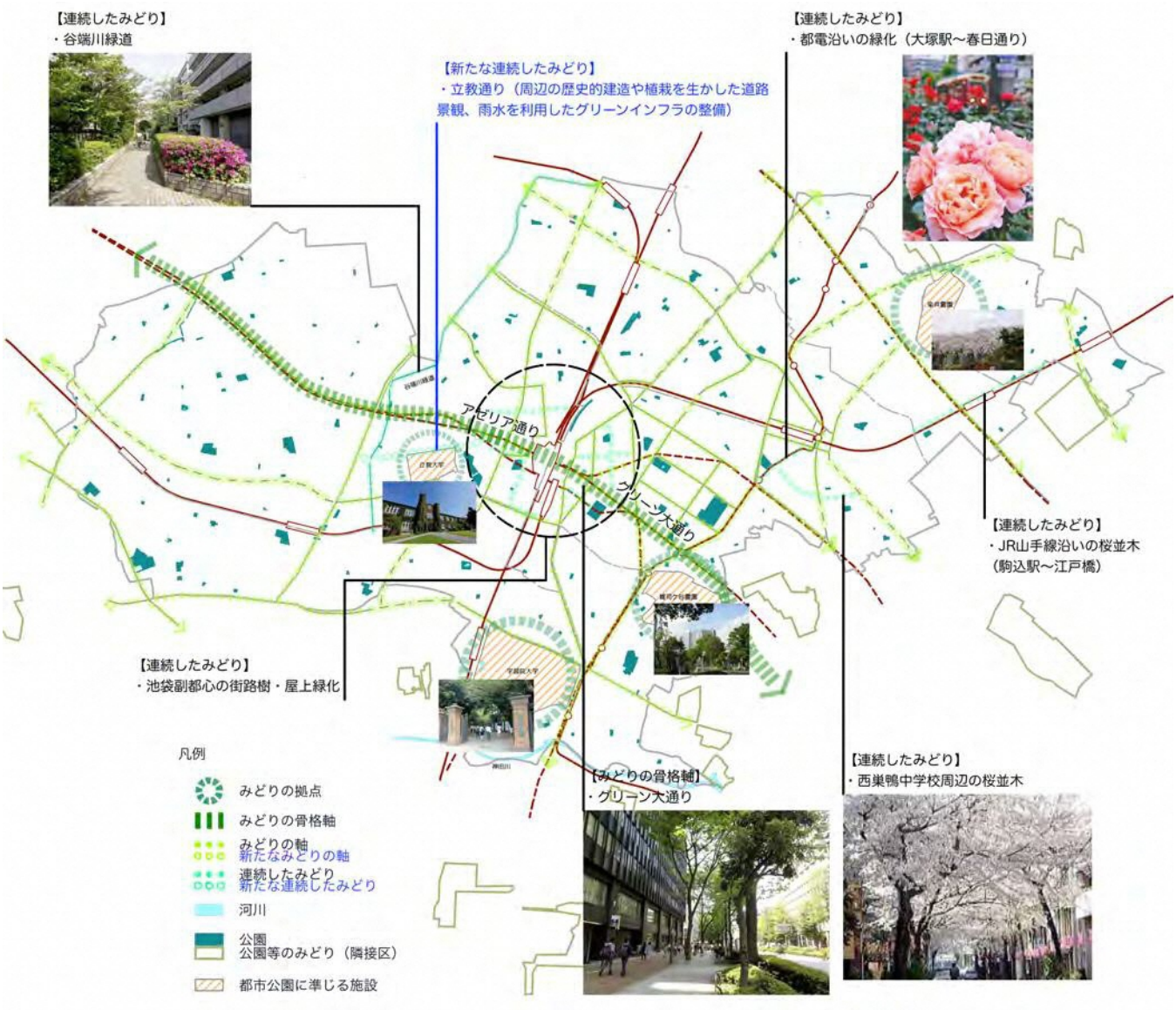
都市の骨格となる幹線道路の街路樹や河川沿いの帯状の緑、学校や霊園の拠点となる緑、点在する公園の緑などが、みどりのネットワークを構成する要素となる

○ 道路、鉄道沿いの緑

- 放射 26 号線および放射 77 号線（グリーン大通り）、アゼリア通り、補助 78 号線および放射 36 号線の緑（都心の豊かなみどりから護国寺を経て、雑司ケ谷霊園や池袋副都心、立教大学を結ぶ）
- 都市計画道路の街路樹
- 谷端川緑道、駒込駅から江戸橋まで続く JR 山手線沿いや、西巣鴨中学校周辺の桜並木
- 大塚駅から春日通りまでの都電沿いの緑化
- （新たな連続したみどり）立教通りでは交通体系の見直しとともに歩道拡幅、無電柱化、周辺の歴史的な建造物や植栽の特色を生かした道路景観や、雨水を利用したグリーンインフラの整備などを検討

○ 河川の緑

- 神田川の桜並木（区内の水面は新宿との境を流れる神田川のみ）



【図】幹線道路の街路樹や鉄道、河川沿いの帯状のみどりなどの連続したみどり

○ 学校の緑

🌳学習院大学

🌳立教大学

資料：豊島区 HP より

🌳小中学校の屋上緑化：改築に合わせた屋上緑化などの整備「目白小学校」「西池袋中学校」
🌳学校の緑縁空間：学校の塀を後退させて遊歩道を確保「西池袋中学校」「駒込小学校」
🌳学校教育でのビオトープ：「目白小学校」

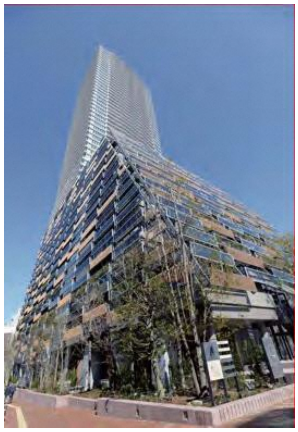
○ 住宅地の緑

資料：豊島区緑被現況調査報告書（R2.3）より

○ 再開発地区の緑

🌳 Hareza 池袋

🌳新庁舎



🌳大塚駅北口

資料：豊島区 HP より

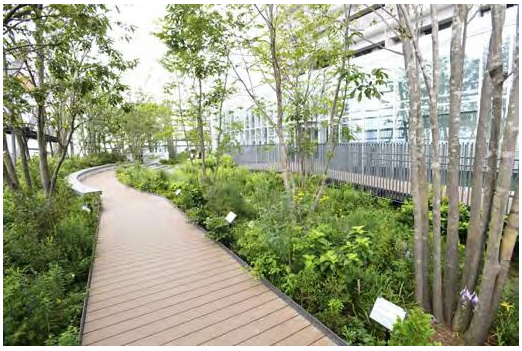
○ 屋上緑化の緑

- 屋上緑化のある建物は 2,095 箇所、緑化面積は 62,985 ㎡、一箇所当たり緑化面積は 30.1 ㎡
- 屋上緑化のある建物数の約 8 割が住宅系で、緑化面積では集合住宅が住宅系全体の 6 割を占める
- 平成 27（2015）年度調査と令和元（2019）年度調査の比較では、区全体の屋上緑化箇所数は 11 箇所減少し、緑化面積は 10,583 ㎡増加しており、施設の建替えによって屋上緑化が整備され、緑化面積が増加したと考えられ、緑化率の増加要因となっている

■1000 ㎡以上の屋上緑化（5 箇所）

🌳サンシャインシティ（4,049 ㎡）　🌳豊島清掃工場（1,112 ㎡）　🌳池袋本町小学校・池袋中学校（1,079 ㎡）　🌳豊島清掃事務所（1,011 ㎡）　🌳西武百貨店（1,031 ㎡）

🌳豊島区役所屋上庭園『豊島の森』



かつての豊島区の自然を再現した「豊島の森」を整備。豊島区の植生や生態など自然のしくみを学びながら憩える場

資料：豊島区 HP より

🌳サンシャインシティ専門店街アルパ屋上『サンシャイン広場』

高層ビルのもと、四季折々の花を眺めながらベンチでゆっくり寛げる広場

資料：豊島区 HP より

🌳西武池袋本店　9 階屋上『食と緑の空中庭園』

印象派絵画のような睡蓮の庭に季節の草花のある、食と四季を楽しむ、天空の庭園

資料：豊島区 HP より